平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果について

1　実施日　平成30年7月5日（木）

2　調査対象　第5学年

3　調査内容　（1）教科の内容（国語・社会・算数・理科）

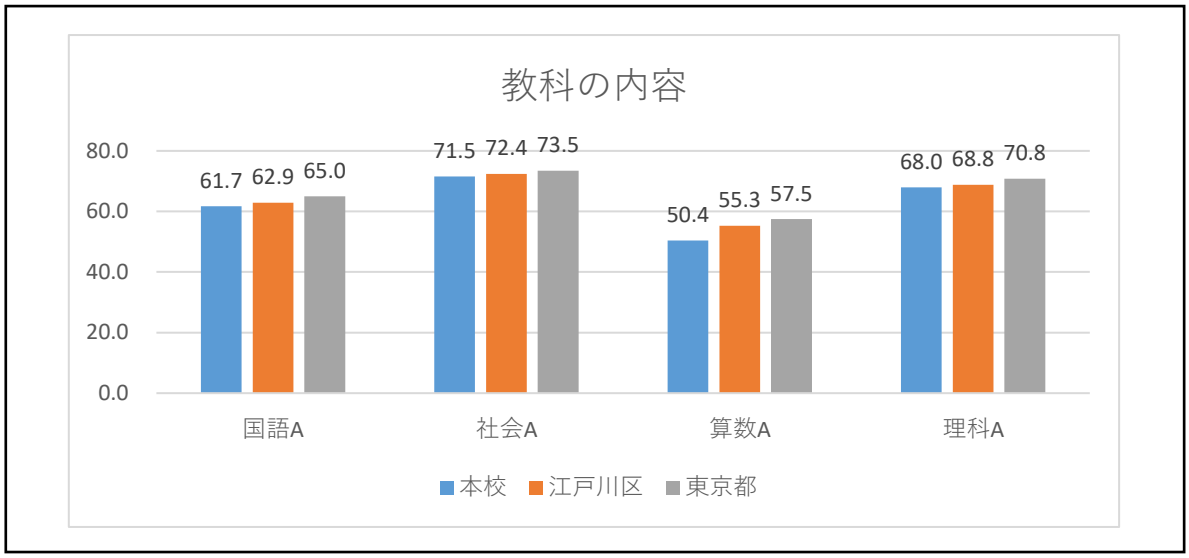
（2）読み解く力に関する内容（国語・社会・算数・理科）

4　調査の分析

（1）教科の内容　平均正答率（%）

①結果

	本校	江戸川区	東京都
国語A	61.7	62.9	65.0
社会A	71.5	72.4	73.5
算数A	50.4	55.3	57.5
理科A	68.0	68.8	70.8



②全体的な結果・考察

・すべてにおいて、東京都、江戸川区の平均を下回っている。

・昨年度に比べ、国語については全国平均との差が２%縮まった。また、関心・意欲については都の平均を１%上回っている。

・特に算数は、全体的に約８%と大きな開きが出た。そのなかでも、思考・判断・表現において、都の平均を約１３%下回っている。

〇国語について意欲的に学習に取り組み、読む領域や言語事項において昨年度よりも平均が上回っていることかも、国語の基礎・基本は定着しつつあることが考えられる。

〇全体的に思考・判断・表現について苦手意識が見られる。問題が何を聞いているのか、何を求めなくてはいけないのかを理解しないまま、問題に取り組んでいることが考えられる。

③具体的な改善内容

・国語の漢字、算数の四則計算など各教科における、基礎・基本をしっかりと抑えた学習に取り組む。

・朝学習、放課後の一之江タイムを利用し、ドリル学習など基礎学力の向上を図る。

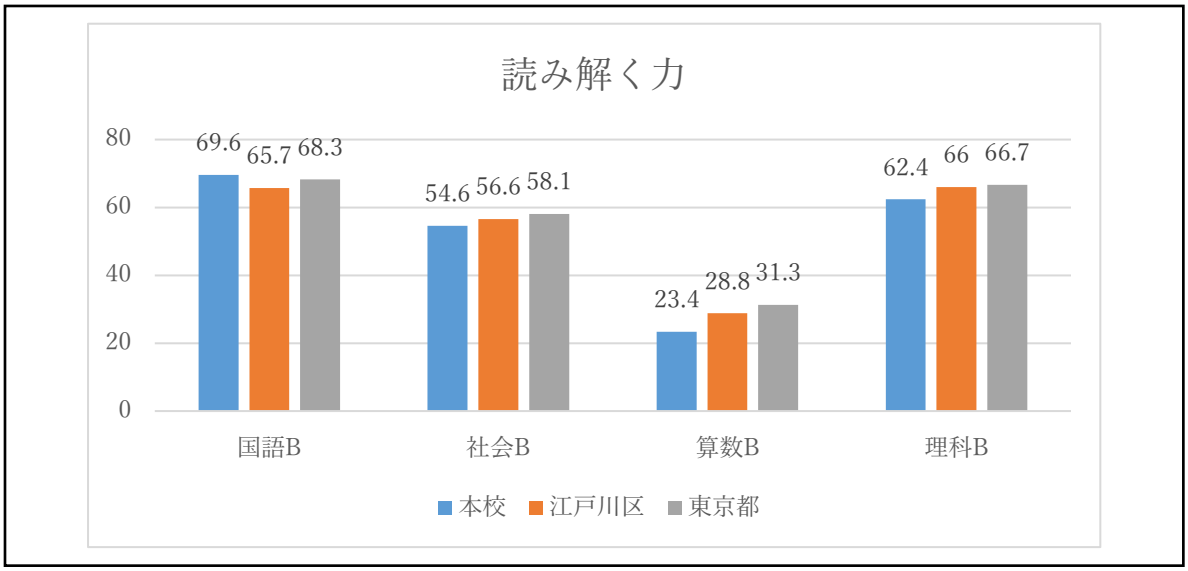
・各授業において、毎時間の初めにはねらいを明確に児童に示す。そして、その時間の終わりには、ねらいに沿った振り返りをさせる。

・問題を提示するときには、何を聞いているのか題意をとらえさせる工夫をする。

（2）読み解く力に関する内容　平均正答率（%）

①結果

	本校	江戸川区	東京都
国語Ｂ	69.6	65.7	68.3
社会Ｂ	54.6	56.6	58.1
算数Ｂ	23.4	28.8	31.3
理科Ｂ	62.4	66	66.7



②全体的な結果・考察

・国語については、東京都の平均を１%、江戸川区とは４%ほど平均を上回っている。

・算数に関しては、取り出す力、読み取る力など１０%近くの開きがある。

〇全体的に読み解く力に関する内容は都の平均を下回っていることから、本校では、問題が複雑になってくると、題意が捉えられなくなったり、複数の資料を読みとれていなかったりしている現状がある。

③具体的な改善内容

・国語においては、目的や意図に応じて話したり、伝え合ったりする活動を多く取り入れる。その中で、必要な情報を集めたり、いろいろな立場から考えたりすることで、話し合い活動の充実を図っていく。

・社会科については、地図やグラフなど資料を読み取る授業展開を考える。地図を使った表現においても、「駅は～から見て、西の方角にある。」等、方角を使った表現を徹底する。中学年の段階から地図を活用した授業展開が必要であると考える。

・算数については、四則計算など基礎・基本を徹底し、基礎学力の向上を図る。習熟度別少人数指導を充実させることで、課題のある児童の定着度を上げていく。また、都で設定している習得目標値未満（10 問正解）の児童の割合が一番高いのも算数である。基礎・基本を徹底することが、今後の指導で必要である。そのために、放課後の補習学習や朝学習において東京ベーシック・ドリルを活用し、児童が苦手意識を感じている単元において、繰り返しプリント学習を進めていく。

※習得目標値の問題とは、教科書の例題レベルの問題を示している。

・理科では、観察、実験を生かした問題解決的な学習の充実を図る。学習問題の提示から、予想、実験、結果、考察と、授業の流れを統一していくことで、児童に次に何を考えていけばよいのか、見通しをもたせて授業に取り組ませていく。